

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和2年度農作物病害虫発生予察情報について

令和2年度農作物病害虫発生予報第4号を発表したので送付します。

---

### 令和2年度農作物病害虫発生予報第4号

令和2年7月3日  
徳島県

#### I. 普通作物

##### 早期水稻

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 6月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が50.0%, 発病度が3.5と, 平年(14.3%, 0.6)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は, 曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉いもちの発生が多い圃場では, 薬剤の登録内容を確認の上, 粒剤の場合は出穂10日前までに, 液剤の場合は出穂直前までに防除を行う。また, 出穂後曇雨天が続いた場合は, 穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が7.6%, 発病株率が1.1%)。

(2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は, 曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。

セジロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 6月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が5.6%, 株当たり虫数が0.00頭と, 平年(25.6%, 0.04頭)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量および日照時間はほぼ

平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)箱施薬殺虫剤は、残効性に優れるものでも施用後約2か月でその効力はほぼ消失する。
- (2)今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

## 斑点米カメムシ類

### 1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「中」

### 2)予報の根拠

- (1)6月第6半月の水田周辺雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、18地点のうち10地点で生息を確認した。捕獲地点率が55.6%と、平年(67.1%)に比べてやや低く、1地点あたりの捕獲虫数が1.7頭と、平年(7.3頭)に比べて少ない。
- (2)高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10~15日前までに除去・処分する(但し、**出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない**)。
- (2)出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3)薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

## 普通期水稻

### 葉いもち

### 1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2)予報の根拠

- (1)6月第6半月の巡回調査では、発生圃場率が4.0%、発病度が0.04と、平年(5.4%、発病度が0.2)並の発生である。
- (2)高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)今後の発生状況に十分注意し、曇雨天が続き上中位葉へ病斑の進展が見られる場合は、薬剤散布を行う。

## セジロウンカ

### 1)予報内容

発生量 平年より多く(前年より少ない)、発生程度は「少~中」

### 2)予報の根拠

- (1)6月第6半月の巡回調査では、発生圃場率が30.4%、株当たり虫数が0.04頭と、平年(12.6%、0.01頭)に比べて高い。
- (2)高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3)防除上注意すべき事項

- (1)今後の発生に十分注意し、基幹防除を励行する。

## サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)。

### 1)予報内容

発生量 平年よりやや多い(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

### 2)予報の根拠

- (1)6月第5及び第6半月の巡回調査では、発生圃場率が81.3%、被害度が7.1と、平年(75.6%、4.0)に比べてやや高い。

(2) 6月のフェロモントラップへのハスモンヨトウの誘殺数は、第3半旬に急増し、以降平年よりやや多く推移している(図1)。また、シロイチモジヨトウの誘殺数は、6月第3半旬に急増したものの第6半旬には平年並となった(図2)。

(3) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫期に徹底防除を図る。なお、シロイチモジヨトウでは、フェロモントラップ調査結果より、7月第1半旬頃が若齢幼虫の発生ピークになると考えられる。

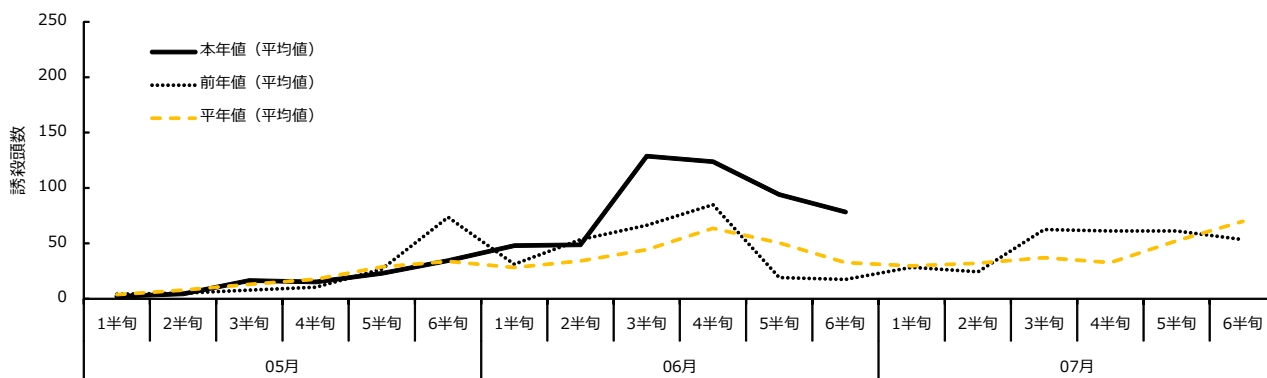


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数推移 (サツマイモ地帯：徳島市，鳴門市，松茂町)

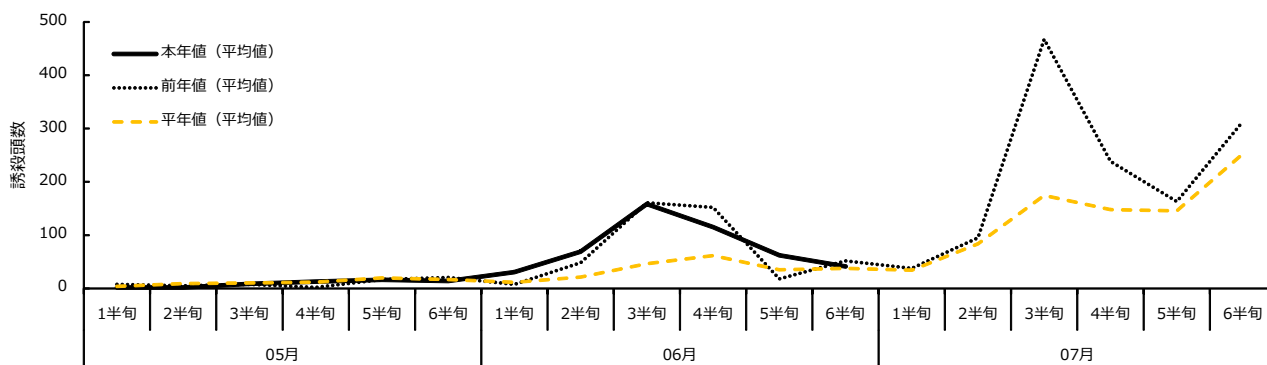


図2 シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数推移 (サツマイモ地帯：徳島市，鳴門市，松茂町)

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 6月第5及び第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が68.8%, 寄生葉率が8.4%と、平年(71.9%, 16.9%)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

## II. 果樹

### カンキツ

#### かいよう病(スダチ)

### 1) 予報内容

発生量 平年※よりやや多く(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬のスタチの巡回調査では,発生圃場率が75.0%と,平年※(54.5%)並の発生であるが,春葉の発病度は1.5と,平年※(0.2)に比べて多い。
- (2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では,気温は高く,降水量および日照時間はほぼ平年並で,期間の前半は,曇りや雨の日が多いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 常発園では防除を励行する。
- (2) ミカンハモグリガなどの害虫の食害痕は病原細菌の侵入門戸となるので,ミカンハモグリガの駆除に努める。
- (3) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。  
※平年値は,調査基準の変更があったため,旧調査基準で調査が行われた過去10年間を新基準に照らし合わせ算出した参考値。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや少ない),発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第3半旬の巡回調査では,発生圃場率が75.0%,寄生葉率が12.5%と,平年(45.3%, 5.6%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では,気温は高く,降水量および日照時間はほぼ平年並で,期間の前半は,曇りや雨の日が多いと予想されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には,葉裏まで薬液が十分かかるよう,丁寧に薬剤を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので,同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第6半旬の巡回調査では,発生を認めていない(平年同時期は,発生圃場率が6.3%,発病葉率が0.1%,発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では,気温は高く,降水量および日照時間はほぼ平年並で,期間の前半は,曇りや雨の日が多いと予想されており,発生助長的な気象条件である。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 6月第6半旬の巡回調査では,発生圃場率が37.5%,寄生葉率が1.5%と平年(11.3%, 0.8%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では,気温は高く,降水量および日照時間はほぼ平年並で,期間の前半は,曇りや雨の日が多いと予想されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には,葉裏や徒長枝にも十分な量の薬液がかかるよう散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので,同一系統薬剤の連用は避ける。

## 果樹共通

カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

(1) 6月の予察灯調査調査において, 上板町では各種カメムシとも平年並の誘殺数となっているものの, 勝浦町では各種カメムシとも平年より少なく推移している。

(2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は, 曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林, 特にサクラやキリ等から成虫が飛来するので, 園内を巡回し飛来に注意するとともに, 飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯へ誘殺された果樹カメムシ類

地点名	月	半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ			クサギカメムシ		
			2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年	2020年	2019年	平年
勝浦	06月	1半旬	9	340	73.7	1	29	15.5	0	0	0.1
		2半旬	12	513	145.6	6	33	21.1	0	0	0
		3半旬	27	93	108	8	11	25	0	0	0.5
		4半旬	13	434	224.8	9	25	32	0	0	0.4
		5半旬	19	179	113.6	9	27	20.4	0	0	0.6
		6半旬	15	421	114.5	24	128	41.2	0	0	1
上板	06月	1半旬	71	21	21.7	3	4	8.6	4	3	0.8
		2半旬	21	11	26.4	3	2	13.1	1	2	1.4
		3半旬	30	1	13.7	4	0	4.3	0	1	0.4
		4半旬	3	7	15.1	6	3	9.3	0	0	0.6
		5半旬	15	7	13	17	0	8.4	2	1	0.7
		6半旬	8	26	11.5	25	23	18.2	1	1	1

## Ⅲ. 野菜

### 夏秋ナス

うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

(1) 6月第5・6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が11.9%, 発病葉率が0.6%)。

(2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並で, 期間の前半は, 曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生にやや抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料の過用を避ける。

(2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

オオタバコガ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「中」

## 2) 予報の根拠

- (1) 6月第5・6半旬の巡回調査では、産下卵発生圃場率が33.3%, 100葉当たり産下卵数が0.9個と、平年(57.8%, 1.3個)に比べてやや低い。
- (2) 6月のフェロモントラップへの誘殺数は、初発から6月第4半旬まで平年並に推移していたが、以降平年よりやや少なく推移している(図3)。

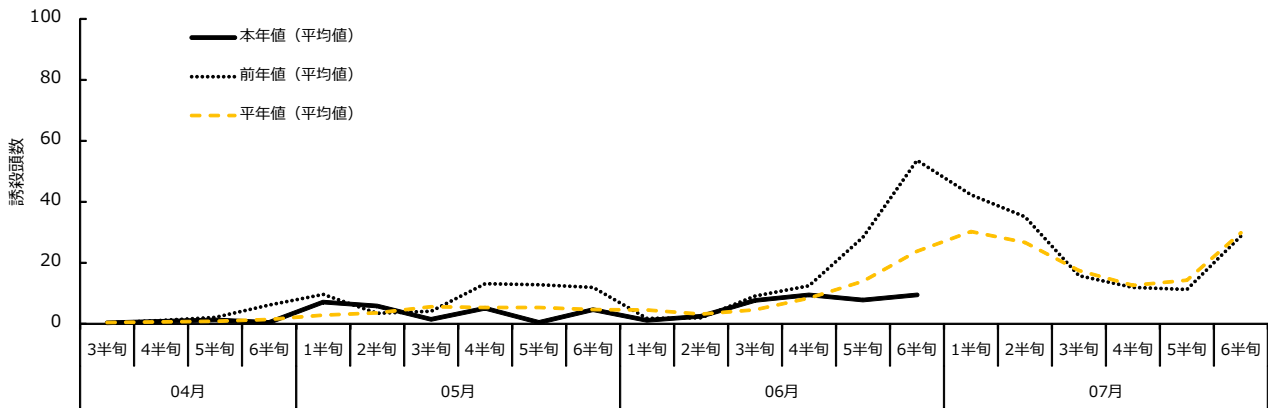


図3 オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数推移(野菜地帯:阿波市,三好市,石井町,東みよし町)

- (3) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実,花蕾)やせん定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎,花蕾に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期を狙って薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵する。野外での卵期間は3日程度であり、7月第1~第2半旬には幼虫の発生ピークが来ると見込まれる。その後ダラダラと常に多い状態となり、防除適期がつかみにくくなる場合もあるので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

## アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない),発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 6月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が11.1%, 1葉当たりの寄生虫数が0.2頭)。
- (2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、防除の際には、葉裏に充分量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少~中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 6月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%, 寄生葉率が0.2%と、平年(36.2%, 1.9%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が7月2日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量および日照時間はほぼ

平年並で、期間の前半は、曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

#### IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

#### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。